

6.2 教育研究指導のあり方

進捗状況報告

【6-2-1】学生の導入教育に関しては、2006年度および2009年度のカリキュラム改定の中でも検討を行っており、学科ごとに新しい導入科目を設置したり、既存の科目の内容を見直すなど、実効的な施策を講じている。

【6-2-2】成績渡し時における担任から学生への履修指導の制度をより実効的にするため、2006年度より、成績渡しの当日に大学に来ない学生の成績を後日事務より渡す方式を改め、教員が保持して必ず教員より手渡す方式を導入した。さらに、現在、GPA下位者を呼び出して履修指導を行う制度についても検討を行っている。

第4学年の履修単位数制限がない点については、2006年度カリキュラムで対応が完了している。現在、成績優秀者の履修制限を緩和することについて、全学の教務委員会「教育活性化部会」で検討を進めている。授業日数の確保に関しては、(1) 授業回数が少なくなる曜日には休暇を短縮して授業日を追加する、(2) 土曜日や期末に補講日を確保する、等理工学部独自の施策を確立している。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

2007年度春学期より、GPA下位者を対象として、その保護者に教務主任名で、担任教員との面談を勧める文書を送付することを決めた。

学内第三者評価

学生の導入教育については、学科ごとの新しい導入科目の導入や既存科目の見直しなど、実効的な施策が講じられている点は評価できる。

履修指導を必ず担任教員が成績渡しとともに行う方式の導入は優れている。また、現在検討中のGPA下位者への履修指導も、導入されたGPAの有効な利用方法であり、望ましい方向である。